

「第12回 東方学院・酬仏恩講 合同講演会」に  
広く一般の方々の聴講者を募集します（無料）

会場： 奈良 法相宗大本山 薬師寺 慈恩殿

会期： 2011年11月26日（土）13時～16時

2011年11月9日

財団法人 東方研究会・東方学院  
法相宗大本山薬師寺内 酬仏恩講

財団法人東方研究会・東方学院（東京都千代田区外神田）では、11月26日（土）13時から16時まで、法相宗大本山薬師寺内酬仏恩講（奈良市 西ノ京）と共催で、「第12回東方学院・酬仏恩講 合同講演会」を奈良 法相宗大本山薬師寺慈恩殿にて開催します。

本年は法相宗の淵源にあたる三蔵法師・玄奘にちなみ、丸井浩東京大学大学院教授・東方研究会主任研究員が「インドの合理主義思想と仏教 ―玄奘が訳したインド哲学書―」、加藤純章名古屋大学名誉教授が「フランス・ベルギーの仏教学と日本 ―俱舎・唯識から大智度論研究へ―」についてそれぞれ60分の講演を行います。

この機会に広く一般の方々の聴講者を募集します（聴講料：無料）。

●開催概要

- 【日時】 2011年11月26日（土） 13時～16時
- 【場所】 奈良 西ノ京 法相宗大本山薬師寺 まほろば会館
- 【主催】 東方学院／酬仏恩講
- 【後援】 法相宗大本山 薬師寺

●プログラム

- 【開会の挨拶】 前田 専學（東方学院長・東京大学名誉教授）
- 【講演】 丸井 浩（東京大学大学院教授・東方研究会主任研究員）  
「インドの合理主義思想と仏教 ―玄奘が訳したインド哲学書―」
- 【講演】 加藤 純章（名古屋大学名誉教授）  
「フランス・ベルギーの仏教学と日本 ―俱舎・唯識から大智度論研究へ―」
- 【閉会の挨拶】 松久保 秀胤（薬師寺長老）

【読者の方のお申込み方法】

住所、氏名、電話番号を明記の上、葉書またはファックスにて下記宛てお申込み下さい。

〒630-8563 奈良市西ノ京町457 薬師寺内 「東方学院・酬仏恩講」係  
ファックス 0742(33)6004

※定員100名になり次第締め切りとさせていただきます

<本資料に関するお問い合わせ先>

財団法人 東方研究会 事務局広報 佐々木(ささき) TEL. 03(3251)4081/FAX. 03(3251)4082

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-17-2 共和ホームズ4階

尚、お手数ですが、ご掲載の際にはご一報賜りますようお願い申し上げます。

講演テーマ① 「インドの合理主義思想と仏教 —玄奘が訳したインド哲学書—」

講演者 : 丸井 浩 (まるい ひろし)

略 歴 : 昭和 27 年東京都生まれ。東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専攻博士課程単位取得退学。文部省給費留学生として、インド・プーナ大学サンスクリット高等研究センター在学。財団法人東方研究会専任研究員、武蔵野女子大学短期大学部専任講師を歴任。平成 11 年より東京大学大学院教授。平成 21 年より東方研究会主任研究員。

専 攻 : インド哲学

主な論文 : “Some notes on the controversies between the “ācāryāh” and the “vyākhyātārah” in the Nyāyamañjarī”、『印度学仏教学研究』54-3、2006 年。

「論証式における upanaya の意味について—初期ニヤーヤ学史再構成に向けての一資料—」、『印度学仏教学研究』53-2、2005 年。

「宗教伝統の権威論証とインド哲学：護教論理と寛容思想」、「『一神教の学際的研究』研究成果報告書」、同志社大学、2007 年。

講演テーマ② 「フランス・ベルギーの仏教学と日本 —俱舎・唯識から大智度論研究へ—」

講演者 : 加藤 純章 (かとう じゅんしょう)

略 歴 : 昭和 14 年東京都生まれ。昭和 42 年ベルギー政府奨学金留学生として、同国ルーヴェン・カトリック大学東洋学科へ入学、E・ラモット教授に師事。東京大学大学院人文科学研究科博士課程（印度哲学専攻）中退。昭和 47 年二松学舎大学文学部専任講師、昭和 52 年二松学舎大学文学部助教授、同教授、同大学東洋学研究所長などを経て、平成 5 年名古屋大学文学部教授。現在同大学名誉教授。日本印度学仏教学会賞、密教学芸賞など受賞多数。

専 攻 : インド仏教学 (アビダルマ)

主な著作 : 『経量部の研究』(春秋社、平成元年)

主な論文 : 「羅什と『大智度論』」『印度学仏教学』11、平成 8 年。

「東アジアの受容したアビダルマ系論書—『成実論』と『俱舎論』の場合」、『シリーズ・東アジア仏教』2、春秋社、平成 9 年。

「アビダルマの存在理由と大乘仏教徒の苦悩」『駒沢短期大学仏教論集』3、平成 9 年。

## 【東方学院・薬師寺内酬仏恩講 合同講演会の経緯】

東方研究会には1981年、アジア諸国へ留学生を派遣する制度が作られました。これは、「若い留学生をアジア諸国に送り、佛教思想の源流を解明し、将来のわが国の文運に資することを念願」とされた篤志家の方の尊い熱意と経済的援助によるものです。この制度が作られてからこれまで合計47名の研究員が派遣され、実地の調査を踏まえた着実な研究推進を行ってきました。一方、薬師寺では、同篤志家の方が30年ほど前に仏恩に報いるためにインドの有名なバンダルカル東洋研究所に対して、仏教聖典の一大叢書である『大正新脩大藏経』を寄贈される際に薬師寺内に酬仏恩講が作られました。こうした経緯から、1999年に組織を変更。より恒久的な事業とするために酬仏恩講を事務局として、東方研究会のアジア諸国へ留学生を派遣する制度を存続。以来、毎年、派遣留学生の帰朝報告を兼ねた合同講演会を開催し交流を重ねてきました。

### 《東方研究会と東方学院》

財団法人東方研究会は、文化勲章受章者・東京大学名誉教授の中村元（1912～1999、島根県松江市生まれ、哲学者、宗教学者）が私財を投じ、仏教学やインド哲学などの東洋思想を軸として、真理探究および人間性の回復を目指して設立し、1970年11月に文部省より認可を受けました。その後、研究成果の普及を目指し、1973年に東方学院を設立、真に学を究め、道を求めたい人に開かれた研究の場を提供してきました。

創立者中村元の没後は、その薫陶を受けた学者たちが結束し、自ら運営をしています。

現在では、学士院賞受賞者・東京大学名誉教授の前田専學（インド哲学者、宗教学者）を財団法人東方研究会理事長・東方学院長として、研究員34名、連携研究員80名、研究会員（東方学院受講者）210名を有する学術団体となりました。